

第 123 回 中部圏知事会議 議事録

日 時：令和 7 年 10 月 21 日（火）

13 時～14 時 55 分

場 所：ホテルメトロポリタン長野「浅間」

【青山 愛知県政策企画局長】

第 123 回中部圏知事会議を開催いたします。

会議に先立ちまして、2 点御連絡がございます。

まず 1 点目ですけれども、本日の会議はペーパーレスで実施いたします。資料一式はお手元のパソコンに保存しておりますので、そちらを御覧いただければと思います。

2 点目ですけれども、報道関係者の皆様へのお願いでございます。知事席周辺での撮影は、座長が選出されるまでの間といたします。以降の撮影は、報道席からお願いをいたします。

本日の出席者でございますが、新田富山県知事、馳石川県知事、阿部長野県知事、鈴木静岡県知事、大村愛知県知事、一見三重県知事、三日月滋賀県知事、鷺頭福井県副知事、中田名古屋市副市長、市橋岐阜県総合企画部長、以上の御出席となっております。

なお、一見三重県知事につきましては、WEBでの御参加となりまして、公務の都合上 10 分ほど遅れての御参加、また、14 時半での途中退席となります。

それでは、開会に当たりまして、開催県である長野県の阿部知事から御挨拶をお願いいたします。

【阿部 長野県知事】

改めまして、皆さんこんにちは。

大村会長はじめ、中部圏知事会議のメンバーの皆様には、それぞれ遠路はるばる長野県長野市までお越しをいただきまして、誠にありがとうございます。皆様の御来県、心から歓迎を申し上げます。

また、先ほどは長野県立美術館を御覧いただきましてありがとうございます。東山魁夷画伯の作品をはじめとして、長野県の誇る様々な作品を収蔵しております。お時間が短か過ぎたと思っておりますので、ぜひまた次の機会には、御家族、御友人と一緒に御出かけをいただければありがたいと思っております。

さて、今日の知事会議は「若者・女性に選ばれる地域づくりに向けた取組」ということを協議話題に意見交換をさせていただこうと思っておりますが、折しも今日は新しい内閣が成立する日でもあります。日本全体いろいろ課題がありますが、ぜひ中部圏各県知事、そして全国知事会も全国の知事が力を合わせて未来に向けてしっかりと前進をしていきたい、歩みを行っていききたいと思っておりますし、また新たな政府ともしっかり協力するべきところは協力し、また現場の声、地方の声をしっかりと伝えながら、一緒になって、日本が、そして地域がさらに発展するように皆さんと力を合わせていきたいと思っております。

今日こういう形で長野県にお越しをいただいたわけですが、今日もいろいろな交通手段で皆さんにお越しいただいたと思います。長野県はまだまだ交通の問題については、特に道路については、中部圏の皆様との関係では発展途上の部分がたくさんあります。中部縦貫道であったり、中部横断道、あるいは三遠南信自動車道、こうした道路整備も、ぜひ各

県の皆さんと力を合わせて進めていきたいと思ひますし、また北陸新幹線のさらなる延伸であつたり、あるいはリニア中央新幹線の早期の開業であつたり、これも大村会長はじめ皆様と一緒に足並みをそろえて取り組んでいきたいと。そしてその先には、ぜひそれぞれの県市の強みをしっかり生かしながらも、いろいろな形で協力できるところは協力しながら、この中部圏の発展のために力を合わせていきたいと思ひています。

ぜひ、今日は忌憚のない活発な御議論をいただく中で、実りの多い会議にしていきたいと思ひます。

私どももできるだけしっかりおもてなしをということで準備をいたしましたが、なかなか不行き届きの点もあろうかと思ひます。ぜひそうした点はお許しをいただければと思ひます。

結びになりますが、各知事、各副知事、部長、そして副市長、それぞれの皆様のさらなる御活躍、御健勝を心からお祈り申し上げるとともに、それぞれの地域がさらに未来に向けて発展していくことを願つて、私からの歓迎の挨拶といたしたいと思ひます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【青山 愛知県政策企画局長】

続きまして、中部圏知事会会長の大村愛知県知事から挨拶を申し上げます。

【大村 愛知県知事】

皆さん、こんにちは。私からも一言御挨拶を申し上げます。

阿部知事はじめ長野県の皆様には、本日の中部圏知事会議の設営と、また行き届いたおもてなしでお迎えいただきまして、心から感謝を申し上げます。

また、先ほどは、長野県立美術館を御案内いただきました。東山魁夷展はじめすばらしい展覧会を拝見いたしました。また善光寺さんも、バスの中からですがお参りさせていただいたということで、よろしいのではないのでしょうか。ありがとうございます。大変おいしいお昼も頂きました。誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

また、芸術祭で、私どもも11月30日まで、9月から2か月半余り、国際芸術祭「あいち2025」「Aichi Triennale 2025」をやっております。またぜひお足を運んでいただければと思ひます。

さて、まずは、阿部知事が9月3日付で全国知事会の会長に御就任されました。誠にありがとうございます。私ども中部圏知事会の仲間から、代表としてといいますか、全国知事会の会長にお就きをいただいたということは、大変喜ばしいこと、ありがたいことでございます。メンバーの皆様にも御推薦人になっていただきまして、誠にありがとうございます。

また、阿部全国知事会新会長を先頭にしながら、また、新内閣もできました。これからいよいよ秋のと言ひますか、補正予算もあろうかと思ひますし、年末に向けての税財政、様々な協議で、あるいは地方創生を含めて、またしっかり問題意識を政府と共有しながら政策の実現に向けて、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思ひます。なにとぞよろしくお願いいたします。

また、中部圏の皆様と関係することとして、9月25、26、27、28日の4日間、東京・大阪以外で初めてやりました旅の国際展示会「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」が開催されました。中部圏9県の共同ブースも出展することができました。ありがとうございます。目標の10万人を上回りまして、約12万8,000人に御来場いただき大

変盛り上がりました。心から御礼申し上げます。また、中部地区共同の旅のディスティネーションができるように、また皆さんとしっかり協力していければと思います。

そしてまた先週末、金・土・日・月で同じく Aichi Sky Expo で技能五輪の全国大会と障害者技能競技会（アビリンピック）を開催いたしました。全国から若手の技能者にお越しをいただきました。23 歳までという年齢制限の中で、若手の技能者に技を競っていただきました。心から感謝と激励を申し上げたいと思います。

さて、今回は長野県さんから「若者・女性に選ばれる地域づくりに向けた取組」という協議話題を提案いただきました。中部圏という地域に若者・女性が定着するにはどういう取組をすべきかということについて、活発な意見交換をいただければと思います。

限られた時間ではありますが、本日の会議が実りの多いものとなりますようお願いをいたしまして、御挨拶といたします。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【青山 愛知県政策企画局長】

それでは早速ですが、会議を進めてまいりたいと存じます。座長につきましては、慣例により開催県の知事にお務めいただくことになっておりますので、阿部長野県知事をお願いしたいと存じます。

座長札を座長の下に置かせていただく間に、報道関係者の皆様に申し上げます。これ以降の撮影につきましては、報道席からお願いいたします。

阿部長野県知事、どうぞよろしくお願いいたします。

【阿部 長野県知事】

ここから私のほうで進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、記者会見をこの会議の後に予定しておりますので、14 時 55 分終了の予定としておりますので、御協力をお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

最初の議事は協議話題でございます。1 時間 15 分程度でこの協議話題の意見交換をしていきたいと思います。

まずは、私から今回の話題の提案の趣旨と本県の取組について御説明したいと思います。長野県の資料も御参照いただければと思います。

昨年的人口動態統計によりますと、全国の出生数は 68 万 6,000 人余ということで、統計開始以来初めて 70 万人を下回りました。中部圏の県・市においても、出生数が過去最低水準ということで、少子化の深刻化が改めて浮き彫りになったところでございます。

このことは、若い世代を中心とした価値観の多様化、あるいは将来に対する経済的、あるいは社会的な不安の表れでもあると考えております。急激な人口減少は様々な課題をもたらす一方で、社会変化を通じて未来への希望を見いださなければいけない部分もあると考えております。

そういう意味では、この人口減少下において、従来の常識にとらわれないパラダイムチェンジに我々地方としてはしっかり挑戦していくことが必要だと思っております。

今回「若者・女性に選ばれる地域づくり」というテーマにしたわけではありますが、やはりこの人口減少を緩和するためには、若者・女性が一人一人の様々な希望を抱きながら、未来に向けて展望を持って暮らせるような社会をつくっていくこと、また一人一人の若者・女性が幸福感、自己肯定感を持って暮らせる地域にしていけることが大変重要だと考えております。

そういう観点で、若者の社会参画の促進、あるいは性別によるジェンダーギャップの解消、ジェンダー平等の推進、さらには働き方改革や子育て支援など取組を進めていかなければいけないと考えております。

今日はそれぞれの地域の優れた取組を共有させていただき、ぜひ活発な意見交換を通じて知見を深め、それぞれの地域の発展へのヒント、手掛かりをつかんでいく契機にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、長野県提出の資料で簡単に長野県の取組を御説明したいと思います。

まず、スライドの1枚目でございます。

長野県は人口減少の中でも活力ある地域をつくっていこうということで、信州未来共創戦略という戦略を策定しています。これは、企業、あるいは団体、行政、県民、そうした皆様と一緒に県民会議の場で策定した戦略でございます。

また、この策定のプロセスに当たりましては、若者・女性を含む多くの県民の皆様と意見交換をした上で取りまとめています。特に重要なキーワードは、「寛容な社会づくり」と書いてありますが、やはり若者・女性にとって暮らしやすい、働きやすい、そうした社会をつくっていくことが必要ではないかということで、この「寛容性」ということに着目し、全体のトーンとして打ち出しているところでございます。

そうした中で、県として具体的な取組が次の「1 若者の社会参画を促進」のところからですが、まず、私の問題意識として、先ほど申し上げました若者とかなり対話をしてきましたが、問題意識を持ったり、あるいは社会的な活動に関心を寄せている若者たちが非常に多いと思っています。

しかしながら一方で、そうした若者が声を上げたり、あるいは自ら行動して具体的な地域社会の変革・取組を進めていくような場がまだまだ少ないのではないかという問題意識を持っております。

そういう観点で、今、長野県としては、ユースセンターの設置の促進に取り組んでいます。これは市町村等とも連携をし、先ほど申し上げた県民会議の中でもプロジェクトチームを立ち上げて、各地域に若者たちの居場所、交流の場所、こうしたものをしっかり増やしていこうということで取り組んでおります。

また、信州みらいフェス、信州若者みらい会議という場を県としてもつくらせていただき、そこで私に対して、あるいは企業・市町村に対して様々な政策提案の機会を講じているところでございます。

加えて、県の審議会には若者を原則1名以上登用しようということで、今年度から取組をスタートさせているところでございます。多くの若い人たちの声や思いをしっかりと行政としても受け止め、また社会においても反映できるような、そうした環境づくりを進めていきたいと思っております。

次のスライドがユースセンターの設置促進の少し具体的なペーパーでございますが、時間の関係で、後ほどまた御覧いただければと思います。

そして、大きな2番目が「性別による固定的役割や格差の解消」ということで、信州未来共創戦略におきましては、ジェンダー・ギャップ指数を様々な分野で上位10位以内に持っていこうという目標を県民の皆様と共に掲げているところでございます。目標を達成するためには、県の行政でいえば、単に女性部局だけの取組ではなくて、全庁的に取り組まなければいけないという問題意識の中で、ジェンダー主流化の視点で、あらゆる県の施策を進めていこうと検討しているところでございます。

また、産業界はじめ様々な団体の皆様と問題意識や方向性を共有していくことが必要で

あることから、「女性から選ばれる長野県を目指すリーダーの会」というものをつくらせていただき、私も参加する中で、経済界、あるいは市町村の皆様と共に、このジェンダーギャップの解消に向けた方向感の統一をして一緒に取り組んでいるところでございます。

さらには県としても率先垂範しようということで、女性の登用、男性の育休の取得の推進に努めているところでございます。

最後大きな3ですが、「共育でも当たり前の働き方への変革」ということです。

やはり女性・若者と話をさせていただいて非常に私が痛感しておりますのは、やはり価値観が多様化し、かつ世代間のギャップも大きくなっていると感じています。残念ながら私が学生の頃は、女性は中学校で家庭科の授業はありましたが、男性は家庭科は受けていない世代でありましたので、今の若い世代とはかなりジェンダー問題についての見え方が違ってしまっているのではないかと反省をしているところでございます。

そういう中で、まず一つは多様で柔軟な働き方に取り組む企業を応援しようということで、いろいろな支援策等を講じておりますし、また、県組織も率先して取り組もうということで、先ほども少し申し上げたように、男性の育児参加の促進のための様々な施策に取り組んできているところでございます。

ぜひ、こうした問題意識を県民と広く共有して取り組んでいきたいと思いますが、何よりも中部圏知事会のメンバーの皆様とも一緒になって様々な発信・広報を行っていくということも必要ですし、今日は私もそれぞれの県・市の優れた取組を学ばせていただきたいと思いますと思っております。

そういう意味で、今日は有意義な場にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ということで、私の方から駆け足で長野県の取組状況をお話しさせていただきましたが、ここからは、各県市の取組の状況について御発言をいただければと思っております。

時間が限られておりますので、私も早口で説明いたしました、大変恐縮ですが、各県市、5分程度でお願いしたいと思います。タイムキーパーがいますので、今「1分」と掲げてもらっていますが、4分が経過しましたら、「残り1分」というボードをお示しするので、ぜひ5分程度で収めていただくようお願いいたします。

では、最初に、富山県の新田知事から順に御発言をお願いいたします。

【新田 富山県知事】

ありがとうございます。今日は阿部知事、そして長野県庁の皆さんに大変お世話になります。

富山県の資料を御覧いただければと思います。

表紙は「寿司といえば、富山」というテーマで、大阪・関西万博に出展したときの模様でございます。寿司が魅力だったのか、3日間で5万人の方々においでいただいたということです。

次のページ、今日はこのような内容についてお話をさせていただきます。

まず、「1. 次代を担う若者の育成」です。

富山県でも若い世代の県外への転出が大きな課題ですが、大学など、高等教育機関に行かれるのはこれはこれでよいことだと思いますが、その後、県内の企業を知らずに転出したまま戻らないという、私は「不戦敗」と呼んでいます、これは何とか避けたい。そのため、進学・就職する前に県内企業の魅力を知ってもらおうということで、中学生・高校生を対象に企業見学バスツアー、あるいは女性の社員と交流会を開催しています。

また、来年度からの2年間で、100名程度の高校生の留学を支援をいたします。また、令和4年度からですが、県内大学生が「起業家のまち」として知られる本県の有知提携先であるオレゴン州のポートランドの起業家と交流し、起業家マインドを養成するという研修も続けています。

また、富山県立大学ではDX教育研究センターを設置したほか、令和6年4月にデータサイエンスの専門教育を行う情報工学部を超速で開設することができました。また、より高度な人材を育成するために、令和8年4月の大学院情報工学研究科の開設に向けて準備を進めています。

このほか今月ですが、富山県と北陸銀行、そしてVENTURE FOR JAPANというNPOの間で連携協定を締結しました。県内企業に2年間就職し、経営者の下で事業責任者として新規事業創出などに取り組むもので、意欲ある若者を引きつけ、県内への定着につなげたいと考えています。

次は「2. DEIの推進」です。

7月に県の経営者協会と共同で、女性の活躍推進官民連携会議を立ち上げました。その目玉事業がDEI企業成長塾です。経営者や幹部が自社の男女間賃金格差の要因を分析し、先進企業に学ぶなど、女性活躍の推進に向けたロードマップを描くコースを開講しています。女性活躍、女性活躍と言って頑張ってくれる女性もたくさんいるんですが、会社の中で孤軍奮闘になっていると。まず会社の幹部や経営者を教育し直してほしいという、そんな切実な意見からこのようなものを立ち上げました。

また、無意識の思い込み、アンコンシャスバイアスへの気づき、そしてそれを解消していくことも重要です。エピソードの紹介、あるいは行動変容を促す特設のサイトの充実、また学校などで出前講座の開催に取り組んでいます。

このほか、働く人全てが生き生きとやりがいを持って能力を発揮するウェルビーイング経営を推進するため、来月経営者向けのセミナーも開催することにしております。

次は「3. 関係人口の創出・拡大」です。

現在新しい富山県総合計画を策定中ですが、その理念は「幸せ人口1,000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」であります。幸せ人口とは、普通の言葉で言うと関係人口のことです。リアル人口が減る中でも、人の出入りを活性化し関係人口を創出・拡大することで経済成長の実現を目指しています。

関係人口の拡大は地方創生2.0基本構想でも位置づけられましたが、まさに本県の目指す姿と重なるものです。本県では、令和4年に関係人口の独自調査を行い、約351万人と推計しました。今年の12月にも3年ぶりの関係人口調査を予定しておりますが、これまでの政策効果が現れていることを期待しています。どきどきです。

また、今月ふるさと住民登録制度の提唱者である株式会社雨風太陽代表の高橋博之さんを講師に迎えたセミナーも開催しました。制度の効果的な活用を市町村と共に検討していきたいと考えております。

次のページです。大阪・関西万博では、3日間「寿司と言えば、富山」を出展し、約5万人に御来場いただきました。本県の魅力を十分にPRしました。本県の代表的な味覚である白エビとブリを事前に職人が心込めて握り、特殊テクノロジーを活用して冷凍したものを当日解凍して提供し、冷凍寿司とは思えないおいしさの極上の寿司を楽しんでいただきました。この冷凍寿司は、9月に開催された農水省の試食会において、小泉農林水産大臣にも試食いただきました。

新たな展開として武内北九州市長と6月に県庁で「すし会談」を開催したほか、8月

には本県と北九州市、JR 西日本の3者による「すし連携協定イベント」を開催。全国メディアにも取り上げられ、すし連携をきっかけに民間事業者の自発的な動きにつながっておりまして、今後の展開に注目いただきたいと思います。

次のページ、最後になります。「PLAY EARTH PARK」は、富山県と南砺市、それからスポーツ用品メーカーのゴールドウインによる官民連携のリーディングプロジェクトです。人と自然がつながり、想像力を刺激し合える場所づくりに取り組むというワクワクするプロジェクトで期待をいただきたいと思います。

新川こども施設は、富山県として初めてPFI手法を導入し、民間の創意工夫・ノウハウを活用しながら、子どもが天候に関係なく、思い切り遊び、体験ができる施設として、今整備を進めています。

このほか、富山県庁の周辺のエリアの魅力を高めるために、エリアコンセプトを策定するとともに、アイデアコンペを行いました。県庁前にあったNHKの跡地も取得し、有効活用に向けて民間から利活用策を広く募集しております。この夏にはドイツビール祭の祭典「富山オクトーバーフェスト」が開催され、大いににぎわったところでございます。

以上が、富山県の若者・女性に選ばれる地域づくりに向けた取組です。御清聴ありがとうございました。

【阿部 長野県知事】

新田知事、どうもありがとうございました。一見知事も御参加いただいたようで、一見知事よろしく願いいたします。この後、馳知事、鈴木知事、大村知事、一見知事、三日月知事、鷲頭副知事、中田副市長、市橋部長の順に御発言いただこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

では、続きまして、馳知事から御発言をお願いいたします。

【馳 石川県知事】

石川県の馳です。改めて皆さんから被災地への対口支援、職員を派遣いただいておりますことに改めて御礼申し上げます。本当に助かっています。ありがとうございます。

石川県の「若者・女性に選ばれる地域づくりに向けた取組について」、資料に基づいて報告いたします。

さて、石川県の社会増減は、高等教育機関の集積によりまして、大学進学時期に当たる10代後半では転入超過ですが、一方で、大学卒業・就職時期に当たる20代前半では、大きな転出超過となっています。結婚後の仕事に対する考え方として、男女共に多くの学生が夫婦共働きを望んでいるということが明確に出ております。

次のページに入ります。そこで学生の地域定着を促していきたいということで、県内就職意識への醸成として、「Back to ISHIKAWA/Stay ISHIKAWAプロジェクト」というのをスタートいたしました。これは学生目線で、地元石川県には魅力のある企業があるよと、そういう人材もたくさんいるよと、その連携をしましょうということで、学生主体のイベントを行っております。

次に経済的インセンティブですが、奨学金の返還助成制度は、今まで理系だけでしたが、今年度から新たに文系も含めた全ての学生を対象を拡大しております。企業の皆さん方にも協力をいただいております。

3ページです。ここが私の気合が入っているところで、いしかわサテライトキャンパスの実施です。県内外の学生さん、ゼミ等が、地域との協働・交流を通じて課題解決に取り

組み、関係人口の創出・拡大を図ると。特に被災地の復興状況を踏まえて、大学や参加学生、地域の声も聞きながら、それぞれの取組を着実に推進するとしておりまして、昨年の地震があったときは、県内外から 350 人に入っており、今年はなんと令和 7 年度、三つの方向で、まず 1、地域課題研究ゼミナール支援、2、「能登・祭りの環」支援事業、3、サテライトキャンパス推進事業、合わせて 9 月末時点で既に県内の 67 の大学から、約 780 名の学生が参加予定でありまして、恐らく 800～900 ぐらいが年内には、能登をはじめ県内で大学生がサテライトキャンパスとして活動していただくことになっています。これを何とか次の段階に持っていきたいと考えています。

次の 4 ページです。若者等の被災地での起業支援です。ボランティア活動などで地域と交流を深めた若者が能登に愛着を持ち、起業を目指す動きが活発化しておりますが、一方、生活基盤の確保、復興状況の分析を踏まえた事業計画の立案など、通常の起業より多くのハードルがあるということで、相当な時間と労力が必要で、そこで「能登起業チャレンジ応援プロジェクト」を創設いたしました。

一つには、左側、生活基盤の確保で、コンテナハウス型の長期滞在施設を、これはのど里山空港に 20 棟整備することとしました。もう一つは伴走型支援であります。こののど里山空港には行政センターもありまして、能登事業者支援センターに 3 名の人を配置して、起業促進補助金の支援枠を拡充することといたしました。

今、80 件ほどを想定して準備中でありまして、ぜひ能登での起業を後押ししたいと考えております。

次、5 ページ、「ワークライフバランスの推進、子育ての支援」です。

ワークライフバランスの推進は必須でありますので、一般事業主の行動計画で、県条例によって国の基準を上回る要件で義務化をしております。令和 8 年、来年 4 月から従業員数 21 人以上 49 人以下の企業に策定を義務化ということで、これは全国初となっております。

また、子育て世帯への経済的負担軽減で、プレミアムサポート事業と、これは社会全体で子育てを応援するという機運醸成で、今年の 11 月 16 日より、なんと第 1 子世帯まで対象を拡大して、全ての子育て世帯を対象に企業の皆さん方からのサービスを展開していただき、今のところの見通しでは、約 9.1 万世帯、これまでの倍、支援が拡充することとなります。

次、6 ページ目です。「男女が共に活躍できる社会の実現」ということで、実は女性の就業率 53.9%、全国 3 位、一方、管理職率が 14.3%、働きたいけれども余り責任を負うのは嫌だと、こんな感じでありまして、管理職になってよと言っても、女性の約 4 割が断りますと、こんな事情があります。

そこで、いしかわ女性輝くダイバーシティ企業塾を開きまして、女性管理職登用の課題解決に向けた講座を行っておりますし、輝く女性リーダー交流研修会で、管理職同士のネットワークを構築して、管理職への意欲を促すプログラムをしております。

最後、ちょっと恥ずかしいデータを言います。石川県は共働きのお父さん、家事・育児時間が全国最下位ということでありまして、知事率先してやらないといかんということで、私はもともとお料理は得意ですが、「はせ道場」として、私自らがお買い物に行ったり、料理をやったりして、それを映像などで発信をしております。

今度、私の手料理をみんな食べてください。食べるということは、一緒に食卓を囲んで会話をすると、こういう機会を男性にこそ持ってほしいと。買い物に行く楽しみ、料理をする楽しみ、食べる楽しみ、片づける楽しみと。毎日繰り返すことにこそ意味があるんだ

よと、これを発信してございます。「はせ道場」です。一度、三日月知事、来てください。終わります。

【阿部 長野県知事】

馳知事、どうもありがとうございました。私も道場に入門しないといけないなと思ってお話を伺いました。ありがとうございます。

続きまして、静岡県鈴木知事、お願いいたします。

【鈴木 静岡県知事】

よろしくお願いします。今日は、阿部知事並びに長野県の皆様に大変お世話になります。

私からは、「ウェルビーイングから考える地域づくり」と題しまして、静岡県の取組を紹介したいと思います。

静岡県は幸福度日本一の実現に向けまして、ウェルビーイングの視点を県政運営の基本的な考え方に位置づけており、客観指標だけでなく、県民の主観的な視点の幸福実感を重要視しております。本年1月に県民幸福度調査を行いまして、それによりますと、本県は健康などの分野の満足度が高い一方で、雇用・所得や多様性と寛容性の満足度が低いということが分かりました。若者・女性にも選ばれる地域になるためには、雇用・所得、すなわち仕事と寛容性にアプローチをする必要があると考えております。

そこで、若者・女性が仕事と寛容性に関して満足感が得られるという観点からの取組を三つ紹介いたします。

まずは育休に係る取組でございます。

本県の男性の育休取得率は44%にまで高まっておりますが、その取得期間は半数以上が1か月未満という短さで、家事・育児が女性に偏りがちであるということが分かります。そこで寛容性の観点から、男性が長く育休を取得しやすい環境整備といたしまして、男性育休長期取得応援手当というものを開始いたしました。

国の制度を超える29日以降の育休を県がサポートし、1か月以上の育休取得を推進するというものでございます。この制度が浸透し、男性の長期の育休取得が当たり前となることで、男女で仕事育児を分担する共働き・共育てが実現できる地域づくりを目指して参ります。

次は、建設業における女性の活躍の取組でございます。

男性中心のイメージがある建設業でございますが、実は理系分野の女性が活躍できる職場であるというアピールを、現在広く県内で展開しております。

まずは、こちらの動画（静岡どぼくらの紹介映像）を御覧ください。

< 動画再生 >

以上のように、理系分野の女性に対してヒットしておりまして、女性の職業観に大きな影響を与えております。

最後に、子ども・若者に係る取組でございます。全国調査で、子ども・若者が政策に関して自分の意見を聞いてもらえたと思う割合は20%と低く、大人や社会に自分の考えを聞いてもらえることで幸福実感が高まるとされております。

そこで静岡県では、子ども・若者が直接意見・提案できる「こえのもりしずおか」をオンライン上に開設いたしました。

新たに「こども・若者意見提案実現プロジェクト」として、未来に希望を持てる静岡県、子育てしやすい静岡県の実現に向けて提案を募集したところ、6歳から29歳まで、136件

の提案をいただきました。こうした提案を県の施策に反映させるとともに、子ども・若者の静岡県への愛着を育み、将来的な定着・定住につなげてまいります。

このほかにも、若者の県内就職を促進するため、まずは私自身が県内の高校を回り、高校生に直接本県の多彩な産業や魅力について特別授業を行っております。実は浜松市長時代にも同じことをやっております、大体2年で市内の全高校を回るというスケジュールをつくって、大体1校当たり3回から4回回っております。割と好評だったので、知事になってからも同様の取組をスタートさせたわけであります。県の場合は高校の数が多いので、なかなか全校を回るといふわけにはいきませんが、積極的にやっていきたいと思っております。

また、副知事にも女性のさらなる活躍について取組を進めていただいております。

今後も私自身が先頭に立ちながら、ウェルビーイングの分析を基に、若者・女性に選ばれ、幸福実感の高い地域づくりを進めてまいりたいと思います。

私からは以上でございます。

【阿部 長野県知事】

鈴木知事、どうもありがとうございました。「どぼくらぶ」のような感じで、ああやって動画で訴えると、女性も自分もこういう仕事を選んでいいんだなというのが自然に入ってくるような気がするので、大変すばらしいなと思って拝見しました。ありがとうございました。

続きまして、大村愛知県知事、よろしくお願いいたします。

【大村 愛知県知事】

ありがとうございます。それでは、私の愛知県の「若者・女性に選ばれる地域づくりに向けた取組」について御説明いたします。

まず、1ページを御覧ください。「愛知県の若者・女性の人口動向」です。

ここにありますように、愛知県は東京圏への転出入の状況では、特に大学卒業後の就職時に当たる20歳から24歳の東京圏への転出超過が顕著となっております。

また、20～39歳の男性100人に対する同世代の女性の数ですが、愛知県では製造業が盛んな地域性もありまして、全国で8番目に少ない状況。9年前は全国ワースト1位でありましたので、ちょっとはましになったかということではありますが、いずれにしてもそういう状況でございます。

続いて2ページを御覧ください。「若者が働きたいと思える職場づくりの推進」です。

多くの若者が就職先を選ぶ際に、仕事とプライベートの両立を重視しておりますので、愛知県では中小企業における休暇を取得しやすい職場環境づくりや、男性の育児休業の取得促進を推進しております。

具体的にはワークライフバランスの充実と生産性向上による日本経済の活性化を目指す愛知県「休み方改革」プロジェクトに取り組んでおります。その一環として、「あいち県民の日」の11月27日を含む1週間を「あいちウィーク」として休暇取得を呼びかけて、この期間中の平日1日を「県民の日学校ホリデー」として休業日とし、秋の3連休、4連休に結びつけております。これを利用いただき、多くの愛知県民が家族そろって中部圏各地の観光地へも出かけております。

こうした取組を月をずらして中部圏全体でやっていただくと、お互いに行き来していいのではないかと。これも長野県御地元の星野リゾートの星野代表も、ぜひそれを全国でや

ってくれと観光産業の活性化にいいということをお願いしております。御検討いただければと思います。これは全国知事会にあります休み方改革プロジェクトでも取り組ませていただいておりますので、よろしく願いいたします。

また、年次有給休暇の取得を積極的に推進している中小企業等を、「愛知県休み方改革マイスター企業」として認定をしております。また県内企業に対しまして、勤務間インターバル制度の導入の促進、また男性従業員が育児休業を取得しやすい職場づくりの支援のために奨励金も支給しております。

次に3ページを御覧ください。「女性の活躍促進に向けた取組の推進」です。

力を入れておりますのは、「あいち女性輝きカンパニー」の認証制度でありまして、女性の活躍に向けた取組を積極的に実施する企業を認証し、働く場における女性の定着と活躍を促進いたしております。今既に1,768社認定させていただき、アピールしております。

また、アンコンシャスバイアスの解消に向けて、中高生が固定的な性別役割分担意識にとらわれずに幅広い進路・職業の選択ができるように出前講座を実施しております。今年度から女子中高生が、科学・技術・工学・数学といったSTEM分野の企業を見学し、面白さや魅力を知る機会を提供しております。

4ページを御覧ください。「結婚・子育て支援の推進」です。

愛知県では400人規模の大規模婚活イベントを県主催で開催しておりまして、1回やったら好評だったので、3回目をやりまして、ずっとやっております。また昨年11月にはオンライン型結婚支援センターを開設し、結婚希望の若者を積極的に支援しております。

また、子育て世帯の経済負担を軽減するため、妊婦のための支援給付を県独自に拡充をいたしまして、国は妊娠で5万円、出産等で5万円ですが、私ども、低所得世帯ですが、1歳6か月児健診と3歳児健診時に児童1人当たり5万円の支給をいたしております。

加えて保育の質の向上ということで、保育所等職員のワークライフバランスの改善、途中入所への対応ということで、国の基準を超えての保育士配置の保育所支援をしている市町村への助成を行っているところでございます。

そして、5ページを御覧ください。最後でございますが、愛知県ではこのような施策に取り組みながら、さらに若い人たちを呼び込んでいく取組もしております。

幾つかありますが、一つのジブリパークは、フルオープンは去年3月ですが、その前ちょうど3年前の11月に1期オープンをやしまして、それから1期、2期ということでフルオープンでございまして、今も多くのお客様にお越しをいただいております。

そして、去年10月、1年前、スタートアップの日本最大の支援拠点「STATION Ai」をオープンいたしました。今スタートアップは約590社、パートナー企業、一般企業入居はトヨタグループを始め、約350社ということで、1年間で多くのピッチイベント、リバーспitch、セミナーフォーラム、シンポジウムなどをやっております。新しい仕組みができているということでもあります。

それから、今年7月にIGアリーナをグランドオープンいたしました。大相撲名古屋場所、それから8月は八村塁選手が来てバスケットを3日やっていただき、9月はボクシングのビッグタイトルマッチ、モンスター井上尚弥のタイトルマッチをやり、9月末は総合格闘技のRIZINのイベントもやりまして、1万5,000が満ぱんになって盛り上がりました。

私もリングサイドにいましたが、ただRIZIN最後のノックアウトをリングサイドで見ていると、いつ決まったんだという感じで、後ろからしがみついて締められるやつは分からないですね。でも見ていて面白かったですけれども、またぜひ馳さんもプロレスで登場し

ていただければ。

ということで、まだ 12 月はフィギュアスケートグランプリファイナルも来たりいろいろやります。そして来年はアジア大会とアジアパラ大会があります。また日本全国各地から多くのお客さんに来ていただいて盛り上げられればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

若者・女性を引きつけるプロジェクトを引き続きしっかりやっていきたいと思っております。
以上です。

【阿部 長野県知事】

ありがとうございます。我々長野県もしっかり追いついていけるように取り組んでいきたいと思っておりますし、アジア大会も知事会全体で盛り上げていくようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、三重県の一見知事、オンライン参加ですが、よろしくお願いいたします。

【一見 三重県知事】

ありがとうございます。まず、この会議を主催いただきました阿部知事、そして長野県の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。今回は所用がありまして、大変申し訳ありません、ウェブでの参加ということになります。おわびを申し上げたいと思います。

さらに阿部知事におかれましては、全国知事会長の御就任、お祝いを申し上げたいと思います。おめでとうございます。

また、今回の議題、共通話題としまして、「若者・女性に選ばれる地域づくり」、今人口減少に各県とも苦しんでいる中でありまして、非常に時宜を得た議題であるというふうに敬意を表したいと思っております。

三重県からの提案、御説明ですが、若者・女性ですね、県外に高校卒業すると大学が県内に少ないこともありまして、流出していってしまいます。したがって、そういった大学に出て行かれた方々に戻ってきてもらう必要があるということ。さらには高校を卒業して就職される方は可能な限り県内で就職してもらう。この二つが非常に重要だと思っております。

三重県の位置関係としましては、中京圏、そして近畿圏に非常に近くて、またリニアができますと東京都の間も 1 時間で結ばれるところで、地理的には非常に有利な位置にあると思っております。

したがって、先ほど申し上げたような、大学を出て戻ってきてもう、さらには高校を卒業して就職先を選ぶときに県内で選んでもらうという、このためのファンダメンタルズを整えていくのが重要だというのが、まず前提でございます。

その上で、今回は県民の意見を聞き、特に若い人、それから女性の意見を聞いて対応しなければいけないこと、これを 2 点に絞って御紹介をし、提案をさせていただきたいと思っております。

お手元の三重県の資料を御覧いただければと思います。

1 ページ目は表紙ですので、開いていただいて、右下に 2 という数字が書いてあるものがあると思います。これで説明をいたします。その次のページと合わせて 2 枚で御説明を申し上げます。

まず、三重県の人口減少の状況でございます。左上を見ていただくと、今 170 万人程度であります。これが 2050 年の社人研の推計では 42 万程度減りまして 135 万人にな

るという推計でございます。

この 135 万人に 42 万人ぐらい減りますと、これは三重県で人口 2 位が津市でございます。そして人口 4 位が松阪市でございますが、27 万人と 15 万人を人口を足したぐらいの人数が減ってしまう。乱暴な言い方をしますと、三重県で人口 2 番目の都市と 4 番目の都市が消えてしまうという推計です。

そして、若者・女性がどんな形で流出しているか、数値的な部分で申し上げますと、その下を見ていただきますと、2024 年、残念ながら三重県の場合も転出が多いわけですが、転出超過が 2024 年で 5,666 人、その中で 15 歳から 29 歳、緑色の部分ですが、これが 4,277 人、約 8 割。要するに、15 歳から 29 歳の若い人が転出超過である、4,277 人が転出超過、15 歳から 29 歳。そのうちの 53%が女性でございます。4,277 の 53%ということでありまして、数値的に言うと 2,246 人、左下でございますが、女性のほうが 15 歳から 29 歳の中でも多いという状況であります。

実は 15 歳から 29 歳の女性は、三重県の人口に占める人口構成比では僅か 6 %です。それが転出する人の 39.6%、15 歳から 29 歳の女性が 39.6%に当たりますので、39.6%の比率で出て行ってしまっているということでもあります。

どういうところが問題なのかということで、右側でございますけれども、女性の声、令和 5 年度、令和 6 年度、私自身も参加をして県内の働いている女性、そして県外に出た女性と会議を開いております。その結果、ここにありますように役割分担意識が強過ぎる、働きづらい、希望する分野の就職先がない、そして働く女性のロールモデルがない、男性が育児に参加しにくいということがありまして、経済分野のジェンダー・ギャップは、実は三重県は、非常に恥ずかしい話ではありますが、46 位ということでもあります。ここを何とかしないといけない。

そしてもう一つ。三重県では、毎年県民 1 万人アンケートというのを、12 月と 1 月に実施をしております。そこで令和 6 年度に出てきた数字、これは毎年こういう傾向にあるんですが、一番の不満は何ですかということを聞きますと、移動手段、交通の便利さが無い。令和 6 年のアンケート調査の結果は 50%という非常に高率でした。交通が不便であるということです。令和 5 年度に高校生と私が対話したとき、もう車がないと生活できない、公共交通の利便性が低いという声が非常に多かったです。

したがって、ジェンダーギャップの解消と公共交通ということに絞って、今日お話をさせていただきますと思います。

次のページを御覧ください。「ジェンダーギャップ解消に向けた取組」。

実は三重県では、全国に先駆けて、令和 5 年 8 月に人口減少対策方針、人口がどんどんこれから減っていく、実は今までも減っていたんですが、立ち止まって、なぜ減っているのか、どういう対策ができるのかというのを検討しました。

もちろん、その 1 年前に人口減少対策課という専門の課を設けて議論しました。その結果、ジェンダーギャップの解消というのが人口減少対策の柱の一つである。五つの柱を掲げたわけでございます。一番やはり大きいのは子育て環境でもありました。それと並んで大きいのがジェンダーギャップを解消しなければいけないということで、先ほど申し上げたような対話を重ねてきました。どうすればいいのか。

令和 6 年度は、約 1 億円を予算化し、ジェンダーギャップの解消に取り組んでいるところです。主な取組はそれ以外にもございまして、3 ページの右を見ていただきたいと思います。

まず、網羅的に戦略をつくろうということで、今年の 3 月から、ジェンダーギャップ解

消基本戦略、こういう議論をしております、戦略をつくろうとしております。三重県だけではなく、全国の有識者の方に集まっていただいて、知恵を出していただいています。また実際に会社を営んでいる方にも入っていただいています。

そこで出てきておりますのが、短時間正社員制度。これは国も取り組もうとしておられるようですが、短時間正社員制度を導入する必要があるということで、私どもは実は企業に対する奨励金というのをを出していきまして、短時間正社員制度を導入していただいたら、この10月から補助金をお渡ししようと、奨励金という形で補助金をお渡しするということも始めていますが、ここはもっと抜本的にやっけていかないといけないと思っています。

さらに3ページの右上ですが、家事代行サービス利用促進というののもやっております、家事代行サービス利用料の補助も、今年の4月から始めています。

さらに、ジェンダーギャップ解消チーム、まず隗より始めよということで、県庁の中にジェンダーギャップを解消するチームを設けて議論をしようということで、改善策を今、検討してもらっています。この6月に始めております。

男性育休につきましては、三重県庁の中に限って申し上げますと、令和3年度は1週間以上の取得をしていた人が52%でしたが、令和6年度は91%に増えました。また1か月以上に関しても、令和6年度で68%という形で増えておるところでございます。

三重県全体では32%ぐらいということで、そんなに多くないんですが、まず県庁から始めていこうということでやっているところです。

以上がジェンダーギャップの解消についての取組であります。これから成果を出していかなければいけない。

そしてその下にありますのが、交通利便性向上の取組です。

例えば、もう鉄道がない、バスがない、タクシーもない、そういったところが多々ございますので、公共ライドシェアを導入していく。またコミュニティバスを運行するというのも、地域によってはあります。そこを支援していこうということで、下にありますように財政支援ですね。補助率、県が2分の1、市町を支援すると。令和7年度は三重県は29の市町がありますが、14の市町でやっておられました。これを2分の1で支援をしています。

また、中でもモデル的な地区、ここに書いておりますが、鈴鹿市、志摩市、南伊勢町、ここは手厚く支援しようということで重点地区に指定をしております、上限額300万円を設けていないということです。

また、中部運輸局とも一緒にやっております、伴走支援で事業者の方も含めて市町に入っていって、私ども県庁も入っていって支援をします。こういうやり方もしておるところでありまして、交通の不便も解消したいと思っていますところでございます。

以上2点を取り組んでいるところです。以上でございます。

【阿部 長野県知事】

一見知事、ありがとうございます。若い人たちと話していると、やはり交通の不便さはかなり問題提起されることが多いので、非常に重要な視点だと我々も思います。どうもありがとうございます。

続きまして、滋賀県の三日月知事、お願いいたします。

【三日月 滋賀県知事】

ありがとうございます。阿部知事はじめ、長野県の皆さんにお世話になっております。

滋賀県からの資料ですが、表紙に写真がありますとおり、大阪・関西万博、右側、おかげさまで大変盛況でございました。また左側、先月から今月にかけて「わた SHIGA 輝く国民スポーツ大会」を開催させていただいております。ここでも若者や女性、多くの方に御活躍いただいておりますし、今週末、25 日からは障害者スポーツ大会を、これは政令市の皆さんにもチームをつくって御参加をいただきますので、ぜひ御来県いただければと存じます。

それでは、その次のページ、三つに絞って申し上げます。

まず、一つ目は「子ども・子ども・子ども」と、三つ重ねておりますのは、一人一人主体としての子ども、社会の一員としての子ども、そして未来の希望としての子どもということで、特にコロナ禍において学校が一斉休業しました。これでいいのかと悩みました。だから子どもの声を聞きました。3 万件を超える子どもの声が寄せられて、「すまいる・あくしょん」をつくりました。

大人がつくっている過程で、これは子どもたちだけでなく、大人にとっても大事ではないかという気づきを得て七つの行動様式をつくり、今もこの「すまいる・あくしょん」を大事にしております。プランをつくったり、条例をつくったりしました。

特にこのページの下のところ、「しが若者アイデソン」ということで、若者の意見を聞きながら県の施策化をするという取組ですとか、一番下にありますように、子どもの権利委員会というのを、この 10 月からスタートさせ、一人一人に寄り添う個別救済と、制度提案を行っていただく取組とをセットでやっているところでございます。

次の 3 ページにありますように、体験ですね。やはり子育て環境を充実というところでは、どの県・市でも行われておりますが、体験活動を重視しようということで、右上にありますような「こどな BASE」、100 を超える企業等の皆さんに御協力いただいて、例えば、トンボを捕って保全する取組とか、水素エネルギーの体験とか、プログラミングとか、2 年半で 3,000 名の子どもたちが参加できるような、こういう取組を今行っているところですし、子どもの医療費の助成、プレコンセプションケア、切れ目のないこういった取組をしているところでございます。

二つ目の取組は 4 ページです。ジェンダー平等というものをあえてもう大々的に掲げてプランをつくり、右側にありますように、ジェンダー平等債という、現在国ではアイスランドが発行していますが、こういうものを発行して、金融の面からもこういう取組を後押しするようなことを、県として主導してやっていきたいと考えているところでございます。

5 ページを御覧ください。県北部地域の振興と。長野県は 77 の市町村があって、信濃か長野か信州かということで随分御苦労いただいているというお話も今回聞かせていただきましたが、滋賀県は近江、滋賀ということで一つにまとまっておりますが、琵琶湖の北と琵琶湖の南、琵琶湖の西という言い方をよくいたします。この地図で深い緑で色づけしているところが、いわゆる湖北、北の地域で、福井県や岐阜県とも隣接するところです。人口減少がほかの地域よりいち早く進む、また高齢化が進むという、こういう課題先進地域でもありますが、魅力もたくさんあるということで、今、県が少してこ入れして、5 年間のプロジェクトを動かしているところです。

ここで一つだけ。右側にありますような高校生サミットを一昨年度から実施しております、私も毎回参加をして、高校生たちとどうやったらいいかと、そういう取組を今一生懸命つくっているところです。例えば、琵琶湖で取れる、まだ食用として使われていない魚を使って振興したらどうかとか、生成 AI を使って観光案内をしようとか、高校生がつくった企業の商品パッケージのデザインを活用してみるとか、いろいろな取組を今つくり、

動かしているところであります。

女性も若者も、やはり一緒になって地域をつくるということが、この地域で暮らし続けたいと思うことにつながるんじゃないかと思しますので、これからもこういう取組をさらに進めていきたいと思っております。

私からは以上でございます。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。三日月知事には、国民スポーツ大会での天皇杯・皇后杯、おめでとうございます。

また今度、全国障害者スポーツ大会に参加いたしますので、よろしくお願いいたします。それでは続きまして、福井県の鷺頭副知事、よろしくお願いいたします。

【鷺頭 福井県副知事】

ありがとうございます。鷺頭でございます。今日は阿部知事はじめ、長野県の皆様、誠にありがとうございます。杉本知事が、本日は公務により出席できず誠に申し訳ございません。知事に代わりまして、私のほうから福井県の取組についてしっかりと御説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、1 ページを御覧いただきまして、本県の長期ビジョンでございますけれども、令和7年3月に改定をしましたが、幸福度日本一の福井を未来につないでいくために、「とんがろう、楽しもう、ふくい」ということを基本的な方向に、次世代ファースト戦略としまして、若者・女性に選ばれる社会というのを目指しているところでございます。

そんな中で、次のスライドでございますが、昨年調査をいたしました県民アンケートでは、仕事に対する喜びや楽しさを感じている県民の割合というのが、若い世代ほど少なく、特に30代で5割程度といった結果がございました。恐らく30～40代にかけましては、仕事も忙しい、そして家庭での責任も重くなっていく、そういった世代でございます。

ウェルビーイングを上げていくためには、ここにもっと頑張れという旗振りだけではなかなか響きにくいということがございますので、仕事も家庭も大変といった世代、とりわけ女性に対しまして、これなら両立できそうとか、ちゅうちょなくチャレンジできそうとか、こう思えるような環境づくりが重要であると考えているところでございます。

3 ページを御覧いただきまして、これなら両立できそうと思えるような環境は何かと言いますと、そこはやはり職場、そして家庭、地域、民間それぞれの取組を総合的に進めていくことが重要であると考えております。とりわけ働きやすい職場づくりというのが一丁目一番地であると考えておりまして、ここは男性も含む働きやすい職場づくりや、多様な働き方、あるいは雇用形態、そしてキャリア選択を実現できるように、登録制度によって企業に個別にアプローチしているところでございます。

また、オール福井で女性リーダーの育成研修や、アンコンシャスバイアスへの気づきを促進するという取組もやっております。特に本県も女性の管理職が少ないということがございまして、これは女性のキャリア選択、活躍を描く上でも大変課題であると思っております。ただ製造業が多いというような産業構造の要因も大きいところでございますので、製造業に個別のアプローチもしているところでございます。

製造業という強い産業がある中で、女性人材をしっかりと育成していくということは、産業の発展にもつながると考えております。中部圏の皆様にも共通する課題が多いと思っておりますので、ぜひこの点で連携もしていければと考えているところでございます。

また、次の4ページを御覧いただきまして、若者・女性の活躍というのを考えたときには、やはり子育て期間というのは大きなイベントでございます。子育てに至るまでの結婚・出産を含め、切れ目のないアプローチが大事であると考えております。結婚支援の特徴としましては、国から最大60万円の生活資金に、県独自で最大40万円を上乗せして、100万円とする制度としておりまして、こういったことも相まって、結果、女性の平均初婚年齢は全国1位、一番若いとなっておりますし、男性も10位ということでございます。

また、出産につきましては、不妊治療を県で支援をしてございまして、1回当たりの自己負担額を最大で6万円までにするというところでございます。さらにこの6万円を市が負担しているところもあるという状況です。

昨年福井県の出生数は4,383人ですけれども、このうち大体5%に当たります214人は、この制度があったから産んだといったアンケート結果もございまして、効果が見られているところでございます。

また、子育て関係では、第二子の保育料の無償化や、また中学生までの医療費の無償化、そして高校授業料の無償化は国が始めたところでございますけれども、福井県では既に所得制限なしでの無償化を実現しているところでございます。

さらに男性育児休業も最大600万円まで、いろいろなメニューを積み上げまして、企業に奨励金を支出してございます。男性育休の取得率は44.9%ということで、全国平均を上回っている状況です。

こうしたことが総合的に影響してか、令和6年度の合計特殊出生率が前年から下がらなかったということで、全国2位となっているところでございます。令和7年はさらにこの取組の改善・充実を図ってまいりたいと思っております。

こうしたことに加えまして、次のページですが、やはり若者にとっても楽しくわくわくするような街にしていかなければということで、北陸新幹線開業後、駅周辺を中心にハード・ソフトともに投資を拡大しているところでございます。

マラソン、あるいはバスケットチームでの盛り上げに加えまして、アリーナ整備など、若者への魅力を向上させているところでございます。

そして最後6ページですが、定着というところに向けましては、やはりそもそも県内進学先がないという声もございますので、県立大に恐竜学部や、また新しい文系学部を駅前のキャンパスとして整備をするということを今進めておりまして、魅力的な学部を新設して、若者の定着を図ることとしております。

また、若者のチャレンジ応援も幅広く実施しまして、若者が安心して活躍できる居場所と、そして舞台を支援することで、若者にも選ばれる福井というのを目指しているところでございます。

私からは以上でございます。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。長野県も進学先が少ないというのは大きな課題でありますので、またいろいろ連携して考えさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、名古屋市の中田副市長、お願いします。

【中田 名古屋市副市長】

名古屋市の副市長の中田でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、阿部知事はじめ長野県の皆さん、本当にありがとうございます。申し訳ございません。広沢市長が今日は欠席でございますので、私のほうから代わりに説明をさせていただきます。

表紙でございます。「若者・女性に選ばれる地域づくりに向けた取組について」でございます。右下は話題から外れますが、現在名古屋でやっているプロモーションのマークでございます。「やさし、あたらし、大名古屋 Open hearts, endless possibilities」というので新しくプロモーションをやっておりますので、やさしい大都市だということを売りに、今やっているとでございます。

それでは、次のページに行ってくださいまして、名古屋市の現状でございます。

10 年ほど前から地方創生が始まりまして、東京一極集中を是正するために「まち・ひと・しごと」の計画をつくるようにと言われてまして、私ども各都市は、その地域地域のダム機能を果たしなさいと国からは言われたわけではございますが、残念ながらこの 10 年を振り返ってみますと、なかなかダム機能は果たせていないということで、若い世代を中心に、東京圏には人口流出をしているということでございます。

特に現在は高止まりでございまして、約 4,000 人です。前は 2,000 人ぐらいでしたが、倍程度で、若者が東京のほうへ出て行っているというのが現状でございます。

次のページですが、そういった中で名古屋市の魅力を一生懸命高めようこの間努力したわけでございますが、これは森記念財団が毎年やっております「日本の都市特性評価」というランキングでございます。政令指定都市でありますとか、県庁所在地でありますとか、都市をランキングしているわけでございますが、その中で名古屋市は今のところ 2 位でございます。大阪市に次いで 2 位ということで、そういう評価もいただいている、少しは魅力が高まってきているのではないかと考えております。

次のページがその少し細かいものでございます。名古屋市の特徴としては、研究開発、それから生活分野で 1 位、それから交通アクセスで 2 位、経済・ビジネスが 3 位ということでございます。総合順位のほうは、2021 年は 5 位でしたが、少しずつ順位を上げておりまして、大阪市さんはずっと 1 位ですが、名古屋・福岡・横浜・京都・神戸で争っているというような状況でございます。この地域の都市として、少しでも魅力あるものにしていきたいと考えておる次第でございます。

ポイントは四つあると思っています。

一つ目ですけれども、やはり大学生についてきちんとコミットしないといけないと思っております。都市だけで見ますと、政令市の中では京都市に次いで学生が多いのは名古屋でございます。できるだけ大学生の方に来ていただきたいと思っております。三つ、なごや学生プラットフォームというのを立ち上げております。これはもう平成 24 年から、「ナゴ校」という、名古屋の「なご」に「子」をつけて「ナゴ校」と呼んでおりますが、学生たちが学校の枠を超えて様々な活動ができるようなプラットフォームをつくっております。

それから二つ目は、名古屋学生社会課題解決プログラムということで、社会課題、行政課題を学生と一緒に解決をするというのを毎年毎年四つから五つのテーマを基にやっております。

最後にもう一つは、「学生タウンなごや推進寄付金」ということで、これはふるさと納税の制度を活用しまして、市内の大学や短期大学が様々な地域貢献事業をやるときに、ふるさと納税でいただいた寄附を各大学に交付することによって地域貢献事業をやっていたと、こんなようなことをやりながら、学生が挑戦できる街、学生が楽しい街を目指し

ているということでございます。

2点目は、次のページでございますけれども、仕事がないといけない、新しい仕事ができないといけないということでございますので、イノベーションをしっかりとやらなければいけないということでございます。国のスタートアップ・エコシステム拠点としての第2期でも選定されました。1期では、そこに書いてありますように中部経済連合会さん、それから名古屋大学さん、愛知県さん、それから浜松市さんと一緒に Central Japan Startup Ecosystem Consortium をつくったんですけれども、2期からは新たに岐阜県さん、三重県さん、静岡県さんにもお入りいただいて、グローバル拠点都市として広域都市圏型に選定をいただいております、この地域一丸となりましてスタートアップをやっているということをやっております。

その中の象徴的な一番の事業が「TechGALA」というのをやっております。これは今年の2月から第1回を始めたんですけれども、海外、それから首都圏から様々な起業家に来ていただくということで、スタートアップ・エコシステムのグローバル化を図ろうという大規模なイベントでございます。今年度は5,000人の方に来ていただきました。今年度ですけれども、来年令和8年1月27日から29日で、ナディアパーク、中日ホール、それから STATION Ai を使ってやろうと考えております。右に写真が載っております。小さくて見にくいと思いますけれども、大村知事にも舞台上に出ていただいております。その横に広沢市長も出ています。小さいので分からないと思いますけれども、そういう状況の写真でございます。

それからもう一つは、多様な働き方ということで、「NAGOYA CONNECT」というボストンの Venture Café と連携しまして、名古屋で「NAGOYA CONNECT」というのを月2回開いております。その中で女性の方のコミュニティをつくっていかうと、スタートアップの女性コミュニティをつくっているところでございます。

それから、アンコンシャスバイアスの解消に向けた環境づくりということで、様々な性別役割分担意識にとらわれないようなシンポジウムですとか、市内企業を表彰したり、そんなようなことをやっているところでございます。

最後でございますが、子ども・子育ての支援ということで、ライフステージごとの子育て支援、また公民連携を通じた子育て支援の推進ということで、そこに書いてございますが、読んでいただければ分かると思いますが、様々な事業をやりながら働きやすいな、生活しやすいなと、東京に比べると本当に名古屋は働きやすいなと、そう思ってもらえるような施策を一生懸命やっているところでございます。

以上でございます。ありがとうございました。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。長野県出身の学生もだいぶ名古屋でお世話になっていられると思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは最後、岐阜県の市橋総合企画部長、よろしくお願いいたします。

【市橋 岐阜県総合企画部長】

ありがとうございます。知事でございますが、ちょうど今日、全国から1万人の方々にお集まりいただき、ねんりんピックを開催しているところでございまして、その閉会式を同時進行しております欠席となりました。大変申し訳ございませんが、代わって説明をさせていただきます。

近年の地方の人口減少の大きな原因といたしまして、都市部、特に東京圏への若者・女性の人口流出というものが大きな課題であるということが指摘されております。

1 ページ目でございますが、本県の現状分析をいたしますと、10 代、20 代の若者層、それから特に女性の転出が多く、ここ 10 年間でその傾向はより顕著になっているという状況でございます、「職業上」「学業上」「結婚」を理由とした転出が非常に多く、こうしたタイミングでの若者や女性の県外転出が人口減少の大きな原因となっております。

右側のグラフを見ていただきますと、移動地別に転入転出者の差を見ますと、隣接する愛知県さんはもちろん、続いて、東京・神奈川といった首都圏への転出超過が非常に多くなっているという状況でございます。

それぞれが望む働き方を実現いたしまして、若者や女性が流出しないように、魅力ある職場・働き方の創出を目指して、若者や女性が持てる力を発揮できるように、本県では「働いてもらい方改革」という取組を推進しています。県内企業の多くは中小企業や小規模事業者でございますが、近年はフルタイムを前提とした採用というのは非常に難しくなっています。一方で、子育て中の方、それから高齢者の方など、短時間の労働やリモートワークであれば働きたいという方がたくさんいらっしゃるのも事実でございます。

実際に最も生産性の高い働き方をしていただけるのは、子育て中の方だという声もあり、例えば 15 時までには帰宅しなければならないという制約の中で、その時間で非常に集中して業務をやっていたかというような事例も存在しているところでございます。

そこで、働く人が働きやすい業務や時間帯に働いてもらうことが最も生産性が高くなることに注目をいたしまして、多様な労働ニーズを満たしてやりがいを持って柔軟に働いていただくことができるように、従業員目線で企業側の意識改革を図り、これを「働いてもらい方改革」として様々な取組を展開しております。

働く人の目線で柔軟に雇用方法を整えることは、企業の「労働力確保」と「生産性の向上」にもつながり、更に若者や女性の県内定着、高齢者や障がい者の活躍の場や社会参加の機会の創出にもつながるものと考えております。まずは県内企業に参考としてもらうため、県内企業における先進事例を取りまとめ、共有を図っているほか、小規模事業者や医療・介護分野も含めまして、マイクロワークなど、新たな働く環境づくりを支援しております。

3 ページ目にその具体的な事例を幾つかある中から紹介しておりますが、例えば、①では、食品加工の製造業でございますが、1 人が抱えていた業務を細分化し、ローテーションで不在時にお互いをカバーできるような体制を整えることや、あるいは店舗回りを専門に行うスタッフを 10 時から 15 時までの勤務時間で募集したところ、子育て中の女性を中心に応募が殺到し、ここ 20 年ほどで主力商品の売上げが約 16 倍になっているという事例があります。また、②でございますが、情報通信業で創業に際して働きやすさを売りにしまして、フレックスタイムや裁量労働制など柔軟な勤務体系を積極的に取り入れるとともに、生成 AI 等の最新技術の活用により、業務の効率化や生産性を併せて追求したことで、毎期増収増益を達成して社員の 4 割が県外からの移住者、社員の平均年齢は 32 歳と、若者が非常に活躍できるという状況になっております。

こうした事例を県内に展開いたしまして、若者や女性にとって魅力ある「職場」「働き方」を創出することで、若者・女性に選ばれる地域を目指していきたいと考えております。岐阜県からの報告は以上でございます。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございます。「働いてもらい方改革」と、非常にユニークな視点で取り組みいただいていること、大変参考になります。どうもありがとうございます。

それでは、各県市から御発言をいただいたところで、本来であれば、ここで意見交換をと思ったのですが、予定の時間をオーバーしております。皆さんそれぞれ詳細に御説明いただいたので、意見交換は省略してよろしいでしょうか。

< 「異議なし」の声あり >

【阿部 長野県知事】

すみません。それでは進行させていただきますので、よろしくお願いします。

今日、このテーマで行わせていただいたので、若者・女性に選ばれる地域づくりの実現に関する宣言というものを取りまとめたと思っております。

宣言文案をお配りしており、事務的にあらかじめ調整をしておりますが、一見知事から御発言があると伺っておりますので、一見知事、よろしくお願いします。

【一見 三重県知事】

ありがとうございます。前もって事務的に意見を提出し御議論をさせていただくところでございますけれども、私どもの意見が遅くなって申し訳ございません。その上で、大枠この宣言については賛成をする立場から、若干の修正を加えていただければありがたいと思っていますところでございますので、私のほうから発言させていただきます。

まず、その宣言の2番にあるように、選ばれる地域づくりのためにはジェンダー平等が必要だというのは、各県の皆さんがおっしゃったとおりだと思います。そして、3にあるように、雇用が何より重要だというのも異論はございません。さらに4にあるように子育て環境の整備、大きく言うとこの三つというのは大きな柱になるだろうと考えておりました、異存がないところでございますが、その上で、雇用の3のところ、可能であれば付け加えていただきたいと思いますので、2点ございます。

一つは、今、政府も検討を進めておりますし、海外でいいますとドイツが成功しておりますが、短時間正社員制度、これをやはり位置づける必要が私はあると思っておりまして、どこかにその文言を入れていただければありがたいということで、御検討いただきたいと思いますのが1点目でございます。

2点目は、やはり私ども、三重県ではありますけれども、中で女性に聞きますと、働く場がまだまだ少ないということを言っております。例えば、管理部門的な部分が少ない。工場とかはあるんですけども、特に女性が働く場が少ない。それをさらに創出する必要があるのではないかという前向きな部分をどこかに入れていただけるとありがたいというのが2点目。

そして3点目でございますが、これは地域により違いがあると思います。例えば、名古屋市の中央部分でありますと問題はないかと思われましてけれども、やはり私どもがアンケートを取りましたところ、若い人の50%、県民の50%以上が、移動手段、交通の便利さを求めています。この宣言の上の柱書のところにも、例えば「観光業」という言葉も入れています。また、リニアの全線開業というのもありますし、移住、さらなる拡大とここに書いていただいておりますが、移住者にヒアリングをしましても、やはり交通が不便だという声が非常に出てまいります。リニアができて2次交通はしっかり考えな

ければいけないですし、観光においても同じです。

したがって、今5項目設けていただいておりますが、交通というのはジェンダー平等、あるいは雇用、そして子育て環境同様に大事だと思っておりますので、可能であれば項目の一つ設けていただいて、交通について記載をいただければありがたいということでございます。

以上3点でございます。申し訳ございませんが、よろしく御検討いただければと思います。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございます。

ほかにこの宣言について御意見ございますでしょうか。

馳知事、お願いします。

【馳 石川県知事】

簡潔に。まず、この宣言は賛成で、文言調整の必要はありませんということを宣言した上で、今後の課題として三つだけ発言させてください。

一番目のところで、地方大学と県、私ども、地方公共団体の関係性の強化をお願いしたいと思います。なぜかという、大学も定数を満たすことが地方大学は特になくなってきて、大変なはずで、統合が検討の課題で、おそらく岐阜県のほうでもやっていたんじゃないかな。改めて、私ども地方大学と県との連携ということを今後の課題としてお願いします。

次、3のところで、孫休を制度化したほうがいいのではないかと。なぜかという、私は調べたんですよ。そうしたら、里帰り出産というのが4組に1組あるんです。そうしたら、パパ休は随分進んでいますが、2人目の出産になると誰か1人目を見ているんだとなると、おじいちゃん、おばあちゃん。おじいちゃん、おばあちゃんというのは、もう早ければ50代、60代、70代。もう、今では70代だって普通にみんな働いています。孫休というのを今後の課題として制度化を求めてもいいんじゃないかと思います。

最後5番目です。私も日本人ファーストですが、これは外国人労働者に選ばれる地域づくりというのは、私どもの地域においては必須で、石川県も、外国人労働者が実は10年で倍に増えています。したがって、外国人労働者は安価な労働力ではなくて、大事な担い手として共に歩んでいく仲間として、外国人労働者に選ばれる地域づくりと。これをしっかりやっていかないと、私ども下手すれば韓国や中国に取られてしまいます。大事な労働力の選られ手として。

今日の文言は、私は全部賛成です。変えなくていいです。けれども、今後の問題意識としてここで付言させていただきました。以上です。

【阿部 長野県知事】

馳知事、ありがとうございました。

ほかにいかがですか。特になければ、まず、一見知事から3点御提案がありました。短時間正社員の話、それから女性が働きたくなるような職場づくり、それから公共交通の充実とありましたが、こちらは少し文章を修文するという形で、私どもに一任させていただいてよろしいですか。

＜ 「一任」の声あり ＞

【阿部 長野県知事】

では、一見知事の趣旨も踏まえて修文をしたいと思います。

また、馳知事から３点御提案がありました。地方大学と県との関係強化、それから孫休、これは確かに実際問題２人目３人目のときはどうするんだというのは、私もお子さんをこれから産もうとされる方からはよく言われる話ですので、大変重要な視点だと思いますし、これは全国知事会でも、今、鈴木知事のところで取りまとめいただこうとしている外国人政策の関連、いずれも重要な課題だと思いますので、今日は修文ではないということですが、県市で馳知事の問題意識を共有させていただく中で、今後それぞれ問題意識を持って取り組み、また必要があればいろいろな機会を通じて国にも提案していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、この宣言については以上とさせていただきたいと思います。

続きまして、議事の（２）「国への提言」でございます。春秋共通の国への提言につきましては、前回協議を行い取りまとめた提言に時点修正等を加えたものでございます。これにつきましては、事務的に調整が済んでおりますので、この提言で国に対して提言活動を行っていくこととしたいと思いますので、御了承を願います。

続きまして、それに関連して（３）「その他」として、一見知事から御発言があると伺っていますので、一見知事、お願いします。

【一見 三重県知事】

時間をいただいて恐縮です。お手元に三重県の資料ということで、「地方選挙の実施時期の柔軟化」という資料を入れさせていただいております。ございますでしょうか。これを御覧になりながら話を聞いていただけるとありがたいと思います。

今、もう夏の暑さ、今年皆さんお感じになられたと思いますが、異常でございます。40℃を超える日も出てきていることですが、そんな中で、実はさきの参議院選挙もそうでしたし、茨城県知事選、そして私の三重県知事選もそうですが、9月7日に知事選挙を、茨城と共に実施しました。参議院選はその１か月ほど前の7月でございましたが、非常に暑さが厳しい中での選挙でございます。

選挙に出ている人間は仕方がないのかもしれませんが、有権者が選ぶ権利を奪っているんじゃないか、政治参加の機会が奪われているんじゃないかという懸念を持ってございます。

ここにグラフがございまして、これはあえて申し上げるまでもありませんけれども、もう6月の半ばから35℃を超える日が非常に多くなって、9月、10月の頭ぐらいまでそういう日が続くという、4年前、10年前には考えられなかったような気温になっているということ。

そこで、実は公職選挙法は、右下にございますけれども、任期満了の１か月前、30日前に知事の実選挙を実施するというようになってございます。例えば、三重県の場合ですと9月12日が任期満了ですから、8月13日から9月12日までに選挙を行わなければいけないということが、今の公職選挙法の規定でございます。

これを例えば、この30日を長く延ばして、5月にわたる日を入れるようにすると、例えば120日までの間ということを改正していただけると、5月15日ぐらいから選挙することが可能になるということでございますので、6月半ばから猛暑日が急増することを

考えると、こういった改正についても御議論をいただいてもいいのではないかという提案でございます。

ほかにも夏に選挙をされる方、御経験されておられる方もおられると思います。ひょっとしたら、冬の選挙もそうだという話、非常に寒い中で有権者が外で聞くのが無理なんだということもあるかもしれません。一度このあたりで気温が非常に変わったということで、御議論をいただいてもよいのではないかという提案でございます。

以上でございます。

【阿部 長野県知事】

一見知事、ありがとうございます。私の選挙もいつも8月の上旬で最も暑いときに選挙運動をやっているの、気持ちは同じでございます。この点について、ほかの方から御発言はございますか。

大村知事、お願いいたします。

【大村 愛知県知事】

一言。賛成でございますが、あわせて、私の愛知県の知事選挙はいつも1月なんです。1月の下旬で大寒の選挙で、2月の第1日曜日の1日、2日、3日になるので、投票率も上がらないのと、私、6年前に全国知事会で申し上げて提案したんですが、要は、今は受験シーズンと重なるんですね。二十歳以上の方だったらまだしも、18歳まで選挙権年齢を下げておいて、高校3年生が対象になって、受験時、1月、2月で私大の試験もセンター試験もあるし、名古屋も試験の会場になるんですね。ですからそういったところを避けて街頭演説をやったりしていますので、1月、2月、3月前半の受験時は避けていただくのはありではないかと思しますので、そのことを併せて申し上げたいと思います。

以上です。

【阿部 長野県知事】

大村知事、どうもありがとうございます。

ほかにもございますか。よろしいですか。このテーマについては、全国知事会長に私が就任するときに、地方自治・民主主義のアップデートというのは四つの重点テーマの一つに掲げさせていただいています。その中で研究会を設けて検討していかなければいけないテーマとして、投票率低下への対応ということも項目として位置づけて、有識者の皆様からも御意見をいただきながら、知事会としての考え方をまとめていこうと今思っておりますので、その中で、今、一見知事、大村知事からいただいた問題についても、しっかり俎上に載せて、知事会として議論し、方向性をまとめていくようにしたいと思っておりますので、ぜひその方向で御理解いただければと思います。

一見知事、よろしいでしょうか。

【一見 三重県知事】

はい、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

【阿部 長野県知事】

では、よろしくをお願いいたします。

続きまして、議事（3）「その他」に入らせていただきたいと思います。

その他につきましては、鈴木静岡県知事と一見三重県知事から、有志の知事による研究会について御発言希望があると伺っておりますので、鈴木知事、一見知事、よろしくお願いいたします。

【鈴木 静岡県知事】

それではよろしくお願いいたします。

資料を御覧いただきたいと思います。有志の知事による研究会ということで、「データを活用し『交通空白』解消を目指す知事の会」について御説明をいたします。

近年交通サービスの需要の減少でありますとか、供給体制の衰退が進むなど、地域公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しております。

こうした中、参加する自治体で好事例を共有し、地域住民の持続可能な移動を確保するため、三重県の一見知事と共に、交通空白解消に向けた研究会を立ち上げます。

これまでの交通政策では、適時適切なデータに基づいた企画立案ができていないという課題がございました。

次にお進みください。本研究会では、データ収集・分析・政策化の循環を共有することで、施策のさらなる高度化、地域間連携の強化を目指し、交通空白の解消を促進してまいります。

具体的には参加自治体が抱える課題解決の取組をおのおの進め、研究会で好事例を共有するなど、共有とフィードバックの循環を参加自治体同士で進めてまいります。

今後、国の協力を得つつ、12月に研究会を立ち上げてまいります。ぜひ、皆様の御参加を心よりお待ちしております。詳細につきましては、後日事務局から御説明をいたします。

私からは以上でございます。

【阿部 長野県知事】

ありがとうございました。一見知事からもございますか。

【一見 三重県知事】

私のほうからは、若干の補足でございます。今回、静岡県の鈴木知事から、交通空白、これはもう非常に大きな問題であると、これを何とかしなければいけないというお話を頂戴しました。私ももう100%賛成でございまして、先ほど三重県からの働きやすく、若者や女性に選ばれる地域というところでも申し上げましたが、もう交通を考えるのは焦眉の急であると思います。

ただ、私も交通行政を長くやってきておりますが、こういう意見がよく出ます。交通の問題は地域ごとに異なるので、これは一律に議論することはできないという話です。実はそうではありません。そこで思考停止するのが一番よくないことでありまして、鈴木知事から御提案をいただいたように、データを用いて、また最近ではAIがございまして、そのAIを活用したりしながら普遍化をし、一般化し、その問題を解決していく。これが重要だと思います。

そのためには問題を抱えておられる地域の皆さん、各県の皆さんにこの会に入っていて、問題点を摘出し、データによってそれを解決していくかという議論をぜひさせていただきたいと思っておりますので、鈴木知事からいただいた考え方に大賛成をしながら、私も一緒に汗をかいていきたいと思っています。

以上でございます。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。これは事務的にまた御説明いただくということで、今日は皆さんに承知をしておいてもらえばよろしいですか。

【大村 愛知県知事】

はい。

【阿部 長野県知事】

私としても、この交通空白の解消は非常に重要な観点だと思いますので、ぜひ一緒に取り組める方向で考えていきたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは、ここで休憩の時間ですが、時間が押しているのでどうしますか。あと 20 分程度で終わる予定ですので、それでは御異議がなければこのまま続行させていただき、その間にコーヒーとぶどうをお出ししますので、つまんでいただきながら進めていきたいと思います。

それでは、その他の議事として、続きまして大村知事から、広域リージョン連携についての御発言をお願いできればと思いますが、よろしくお願いいたします。

【大村 愛知県知事】

それでは、資料はありませんが、私から広域リージョン連携について御提案をさせていただきます。

先般国におきまして、都道府県域を超えた広域連携の枠組みとして、広域リージョン連携制度が創設をされました。中部圏におきましては、この中部圏知事会による国への提言活動はじめ、中部圏開発整備地方協議会による広域のインフラ整備の推進や広域観光の促進など、広域で連携をしてきたところでございます。

しかしながら、人口減少・少子高齢化の進展などで、中部圏がさらにそうした中で成長を目指していくためには、これまで以上に広域での連携を強化し、経済界などの協力も得て官民連携の取組を推進していく必要があると考えます。

そこで、これは既にいろいろ各県さんにお話をさせていただいておりますが、広域リージョン連携ということで、この会議のメンバーに、静岡県さんの御提案によりまして山梨県さんも加え、圏域内の政令指定都市である静岡市・浜松市、さらには経済界の参画も得て、中部地域として広域リージョン連携に取り組み、インバウンド誘客や域内周遊の促進といった観光分野、産業振興分野などのプロジェクトを推進してまいりたいと考えております。

地域の皆様の御賛同をいただきまして、中部地域が一丸となって広域のプロジェクトに取り組んで、この地域の魅力を高め、持続的な成長・発展につなげていくことを考えておりますので、ぜひ御賛同をお願いしたいと思っております。

ということで、広域リージョン連携というのをつくっていかうというこの御提案でございます。よろしくお願いいたします。

【阿部 長野県知事】

大村会長ありがとうございました。今、大村会長から広域リージョン連携、中部圏で協

力して取り組んでいってはどうかという御提案をいただきました。皆様から、これについて御発言があれば挙手をお願いいたします。

馳知事、お願いします。

【馳 石川県知事】

では先に。まず大賛成です。ありがとうございます。大村知事に感謝申し上げます。その上で、広域リージョン連携が何を指すのかという意味で言えば、私は意味合い消費、これは観光も産業もそうですが、この中部地域の連携によって、さらに価値観が向上して、経済的な利益、文化的な価値観の向上、そして魅力の創出、海外からも人を呼び込める、先ほど私が申し上げたように、外国人労働者の受入環境の整備も、ぜひ入れていただきたいと思います。それが我が地域の産業の創出、また、働きがい、住みやすいとか、働きやすいという環境づくり、そして文化的な、お祭りなどもそうですが、楽しいこともある。こういう魅力を集積できるエリアだということを、より一層発信する上での連携をしていただけるように、そういう一つの目標を皆さんとも一緒に考えて、ベクトルを合わせていきたいと思って発言いたしました。

【阿部 長野県知事】

馳知事、どうもありがとうございました。

鈴木知事、お願いします。

【鈴木 静岡県知事】

大村知事の御提案に大賛成でございます。その上で、私どもの県の静岡市と浜松市、そして本県と富士山等を通じて大変つながりの深い山梨県も加えていただきましてありがとうございます。

この中部圏域は言うまでもなく、本当に観光資源や産業資源に恵まれた地域でございますので、行政の境を越えて、連携をより一層深化していくことは大変この地域の成長・発展に向けて大事だと思っております。

私ども静岡県としても、例えば空飛ぶクルマの社会実装でありますとか、ライドシェアの普及等につきまして、皆様と連携していければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

【阿部 長野県知事】

鈴木知事、ありがとうございました。

では、新田知事、お願いします。

【新田 富山県知事】

ありがとうございます。大村知事の御提案には賛成です。ぜひこの強固な産業基盤を持つ中部圏の強みを生かせるような具体的なプロジェクトを今後つくっていければと思います。

プラスして、実は昨日ですが、北陸においても石川県・福井県・富山県、そして北陸経済連合会をもって、北陸地域広域リージョンの連携宣言を行いました。ただ、これは国のほうでは複数のリージョンに属することは全然問題ないということなので、並行して北陸

でも進めさせていただきたいと思いますし、もし連携して相乗効果がより出ることがあればやっていきたいと考えています。よろしくお願いします。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。
では、三日月知事。

【三日月 滋賀県知事】

ありがとうございます。私も大村会長の御提案に賛同します。その上で、私どもは関西でも関西広域連合で広域リージョン連携をやりますので、複数、それぞれの地域で、圏域で取り組むということで盛り上げていかれればと思います。

あえて2点申し上げますと、高市政権でもこのことがしっかりと堅持されて、推進していただけるように、確認や、必要に応じて要望するというのと、もう一つは、この広域リージョン連携をつくるときに具体的な宣言をしたり計画をつくるときに、いろいろと箸の上げ下げまでは言いませんけれども、あれを入れろとか、こう言うなとか、これを入れるなとか、いろいろな御注文がつくようでございますので、このあたり、それぞれの圏域の自由度に応じて、特性に応じて推進できるような、そういったことも併せて言っていっていただきたいと思います。対応はお任せいたしますので、よろしくお願いいたします。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。

途中ですが、お手元に長野県が誇る3種類のぶどうをお配りしました。一番右の黒系のぶどうがナガノパープル、これは長野県のオリジナル品種です。真ん中がおなじみのシャインマスカットで、左側の赤いのがクイーンルージュという、これも長野県の果樹試験場で開発したオリジナル品種で、糖度が21%以上、もっとも甘いパリッとした食感が特徴でありますので、ぜひお楽しみをいただければと思います。

私も広域リージョン連携について発言させていただきますけれども、まず、大村知事から御提案いただいたことに大賛成でございますし、今日こういう形で御提案をいただき、結束して進めていくことは大変重要だと思っています。

その上で、やはりこの中部圏としてどういう特色を打ち出していくのかということ、しっかり打ち出していくことが重要ではないかと思います。観光であったり、あるいはこの地域は非常に製造業も盛んな地域でもあります。関西をはじめ、いろいろな地域が広域リージョン連携を進めようとする中で、やはり中部圏と言えばこういう地域だよということを経営者たちに訴えられるような連携を進めていかれればと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

ほかの皆さん、よろしいですか。特になければ、最後、大村知事からこの件についてぜひまとめていただければと思います。

【大村 愛知県知事】

御賛同いただきまして、ありがとうございます。それでは、今後この広域リージョン連携宣言の作成・公表に向けまして、取り組み分野、産業振興、観光、交通、女性活躍、多文化共生などではあると思いますが、取り組み分野を実施するプロジェクトなどにつきまして、調整を進めていきたいと考えております。

なお、目安としては 11 月下旬の全国知事会、それまでには何とかまとめられればと思いますので、また今後皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【阿部 長野県知事】

大村知事、ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

それでは、以上今日予定していたテーマについては終了であります。おかげさまで予定どおりという感じにはなっていますが、だいぶ途中省略しましたので、もしこの際、今までの中で発言がもしあれば。

では、馳知事、お願いします。

【馳 石川県知事】

皆さん、お手元のスマホで御覧いただいたように、私たちが議論をしている真っ最中に高市総理が誕生されたようであります。まず、我が国初の女性総理の誕生ということのお祝いを申し上げて、中部圏知事会としても、まずお祝いを申し上げたいと思いますが、高市総理は総務大臣も経験しておられますから、私ども地方公共団体の立場、はっきり言いますけれども、財源の確保について、やはり知事会としてもしっかり釘を刺すということは、私は今、中部圏知事会議としての発言をしていますので、このことは、阿部全国都道府県知事会の会長に、我々の中部圏知事会の仲間としてもお願いしますよと。財源の確保、安定的な確保ということは、インフラ整備において必須ということもありますし、私も能登半島地震と奥能登豪雨の被災地、半島を抱える知事とすれば、今が一番大事なときなので、国土強靱化計画の腰折れとならないように、そのことだけは私からも発言させていただき、もし御賛同いただけるなら皆さんからも、お祝いはお祝いだけれども、安定的な財源の見通し・確保、社会資本整備、国土強靱化はちゃんとやってくださいよということは釘を刺すような感じで、申し訳ないですが一言発言させていただきます。

以上です。

【阿部 長野県知事】

馳知事、ありがとうございました。

高市新総理が誕生されたということで、組閣も進んで、国政レベルでも前進していく体制が構築されるだろうと思います。今、馳知事から御発言がありましたが、ほかの方はございますか。特になければ、全国知事会としても、まず新しい内閣の誕生には祝意のメッセージを出す形になります。加えて、これから恐らく総理は補正予算の指示をすぐされるというような報道もありましたので、我々知事会としてもそうした動向をしっかり後押ししつつ、一方で馳知事からもお話があったように、地方の財源についてはしっかり求めていかなければいけないと思っております。

この点は全ての皆さんの共通の認識だと思いますので、そこはしっかり対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

それでは、以上で本日のテーマ、全て終了とさせていただきたいと思います。各県市からの PR 事項については、机上配付しておりますので、後ほどお目通しをいただければと思います。

最後になりますが、来年春に開催いたします 124 回の会議につきましては、名古屋市にお願いするという形になっております。中田副市長から、一言御挨拶をいただければと思

います。よろしくお願いいたします。

【中田 名古屋市副市長】

まず、本日阿部知事をはじめいたします長野県の皆様方には、このような場を設定いただきまして、また大変心がこもったおもてなしをいただきまして、ありがとうございます。御礼申し上げます。

さて、次回の中部圏知事会議でございますが、先ほどお話がございましたが、私ども名古屋市で開催ということでございます。令和8年6月5日を予定しております。視察先につきましては、来年アジア・アジアパラ競技大会（愛知・名古屋）が9月、10月に開かれるということでございますので、それを機に全面問題改築をいたしましたパロマ瑞穂スタジアム、これはメイン会場になりますが、そこを御案内できればと考えている次第です。大会も近づいておりますので、ぜひその辺の熱気も感じていただければと思っております。

また、一つお手元に配付した資料の中に入っていますが、来年の大河ドラマは『豊臣兄弟』ということでございまして、来年1月24日から『豊臣兄弟』の大河ドラマ館を、秀長が生まれた名古屋市中村区でオープンいたします。そのような武将を中心とした観光誘客も進めておりますので、そういうようなところも見ていただければと考えておる次第でございます。

来年でございますが、皆様に名古屋にお越しいただきまして、盛大にお迎えできることを心から楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【阿部 長野県知事】

どうもありがとうございました。次回、名古屋市にお世話になりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で第123回中部圏知事会議を終了したいと思います。議事進行に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

それでは事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。